

## 【中内学園中長期計画（N-PLAN）策定の必要性】

### 外部環境の変化

- ・18歳人口の減少  
※特に2020年以降は急激に減少する。
- ・競合他大学の学部、学科新設等による定員拡大。
- ・大学生の学力低下。
- ・国からの補助金交付が全体的に減少。

### 内部環境の変化

- ・開学以来、初の入学者定員割れ(2011年度)。
- ・「就職」「実学」の分野において他大学にキャッチアップされ、差別化が難しい。
- ・学力の低下だけではなく、ルール・マナーを身につけていない学生の入学割合が年々増加。

外部環境・内部環境の変化は想定を超えた早さで起こっている。中内学園・流通科学大学がこの変化の中で勝ち残るためには、学園・大学創設の原点を再認識した上で、この変化に対応しなければならない。これまでの教育システムを根本的に見直し、ベストな教育システムを構築するための投資と、それを推進する組織・制度の整備が必要である。

## 1. 中内学園中長期計画(N-PLAN)の考え方

このとおり非常に厳しい現状を打破するため、2010年度からの中長期計画である「RYUKAプラン21」において実施中の内容を包含した上で、学園方針でもある「原点回帰」をキーワードとし、開学30周年に向けて2012年度～2016年度の5年間、以下の考え方で改革を実施する。

### 大学改革

- ・「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を身につけて社会へ出て貢献するため、学生が自分の個性を伸ばし、自分の学びたいことを、学びたい方法で習得し、それを生涯学習へとつなげる「個性主義」を重視した教育を実施する。
- ・そして、教職員は、学生に将来の夢や目標を持たせる(気付かせる)ための教育を初年次において実施するとともに、学生が努力を惜しまず、何事にも挑戦できるようサポートを行う。
- ・中内学園・流通科学大学のあるべき教職員像を設定し、それに基づく教職員採用・評価・昇格基準の変更を実施する。

### 《学生の成長ステップ》

- ・様々な教育プログラム、課外活動プログラムに挑戦することを通して、自分自身と向き合い、将来の夢や目標について考える。
- ・“流通、リテールとは何か”を学び、大学の建学の理念である「流通を科学的に研究教育することを通じて、世界平和に貢献し、真に豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成する」の意味について理解を深める。
- ・課外活動等を通じて、ルール・マナー、社会適応力を身につけるとともに「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を醸成する。

・自分自身の将来の夢や目標とマッチするコース、ゼミ、授業の選択を行う。また、将来の夢や目標の実現にあたって必要となる資格取得等に励み、自分の学びたいことを学びたい方法で習得し、「自分の個性を伸ばす」ことについて、楽しみを持った上で実践する。

・自分自身の「個性」について再認識し、それを社会でどのように活かしていくか、あるいはどのように貢献していくか、について考えた上で、就職活動を実践する。また、社会人となってからのキャリアの積み方についても考える。

### 組織力・経営力強化

- ・意思決定プロセスを明確化し、透明性のある開かれた組織風土を醸成する。
- ・3大経費(人件費、教育研究経費、管理経費)のコントロールによる予算統制を大前提とし、将来的に大幅な補助金削減があることを想定し、第二の収益源確保対策等について検討を実施し、財務構造の磐石化を図る。

### 学園・大学の存在価値明確化

- ・リテールを「最終消費者が 欲しいものを 欲しい時 欲しい量 欲しい場所 欲しい価格で手に入れることができる機能」と定義づけ、その研究者を育成するとともに、リテールを一つの産業として確立させていく。

## 2. 中内学園中長期計画(N-PLAN)における主な実施事項

### <大学改革>

- 入試
  - ・育てたい人物像『「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を持つ』を見据えた入試制度、判定基準の確立
- 教育
  - ・従来の講義暗記型、一方通行型の多人数教育から、参画型、少人数型教育への転換(特に初年次において)
  - ・学生に将来の夢や目標、興味・関心を入学後できるだけ早期に発見させることを目的とした初年次教育改革
- 学生生活
  - ・課外活動を中心とし、学生にルール・マナーを身につけさせるための施策検討
  - ・学生満足度(「流科大」へ来て良かったと思わせる)を更に向上させるための学生向けプログラム等整備
  - ・学生に「自主・自律・自己責任」の意識を持たせる施策検討
- キャリア開発
  - ・学生が自らの「個性」を認識するためのサポート
  - ・学生のキャリアプラン作りのサポート
- 教職員の採用・評価・昇格
  - ・「学生の教育」に対して、より重点を置くことによる教職員採用・評価・昇格基準の変更
  - ・教員個人研究費の見直しと研究活動の評価実施
- 大学組織
  - ・大学改革を推進し、PDCAをまわすための組織(センター、委員会、事務局組織)再構築
- 大学風土
  - ・学生が失敗を恐れず何事にも挑戦できる風土作り

### <組織力・経営力強化>

- 意思決定プロセス
  - ・法人の方針に従って、大学が決定し遂行するプロセスの確立
- 人材育成
  - ・常に問題意識を持ち、学園・大学の戦略遂行を担う職員の育成
- 財務構造
  - ・将来的に大幅な補助金削減があることを想定し、財務構造の磐石化を図る
  - ・第二の収益源確保対策検討
- 投資計画
  - ・選択と集中(中長期計画において必要な投資を決定すると同時に、不必要と判断される経費の削減等を実施)
  - ・学園・大学の将来像検討(新たな学部学科設置等)

### <学園・大学の存在価値明確化>

- リテール科学研究所の発展
  - ・各業界団体と協力し、テーマを絞り込んだ研究会を実施するとともに、研究者(教育者)を採用、養成し、学園・大学の存在価値を明確にするための目標「リテールを一つの産業として確立させる」への基盤作りを実施